

AUTODESK DevConX Tokyo

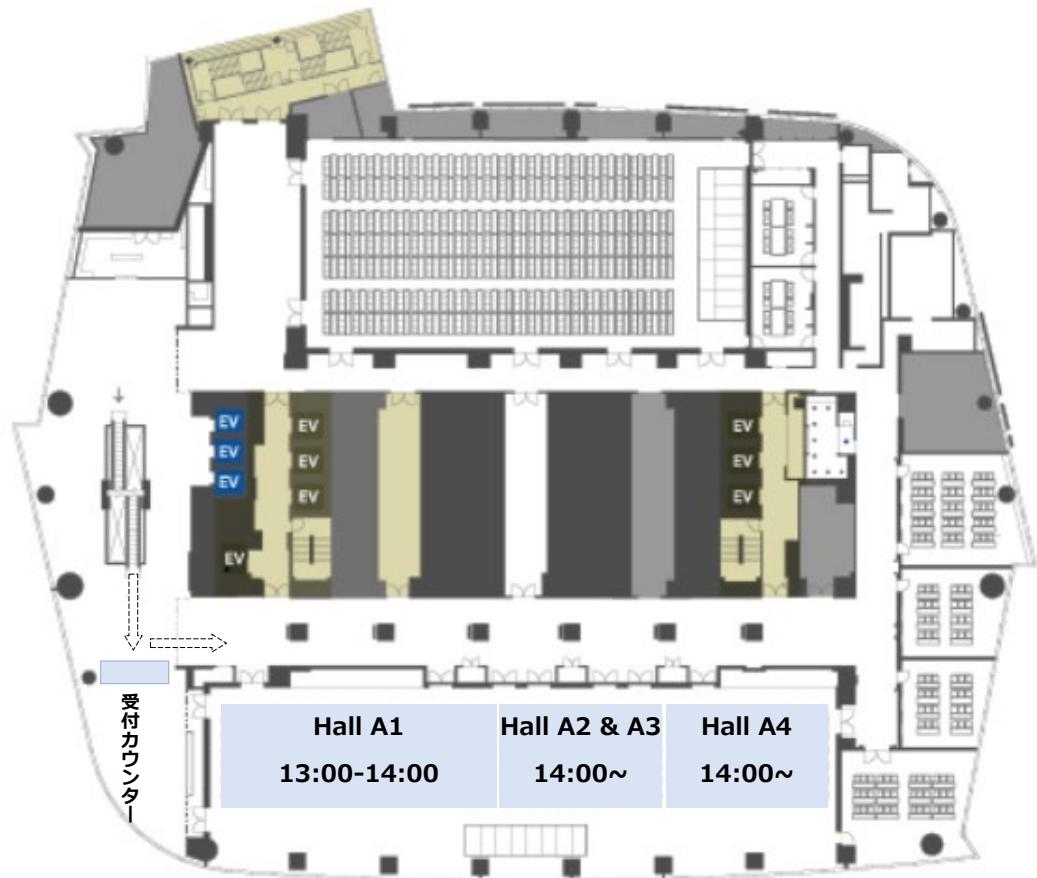
7月4日 虎ノ門ヒルズフォーラム



会場： 東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー 虎ノ門ヒルズフォーラム 5階



- 開催当日は受講票を印刷してお持ちの上、お名刺をご用意ください。
- 受講票の引き換えにネックストラップをお渡ししますので、会期中お名刺を入れて、ストラップをおかけください。
- お帰りの際には、ストラップのみ受付にお返しください。



セッション スケジュール：

時間/部屋	Hall A1 (210)
12:30-13:00	受付
13:00-14:00	ジェネラル セッション
14:00-14:15	休憩

ブレイクアウト セッション

時間/部屋	Hall A2 + A3 (126)	Hall A4 (102)
14:15-15:00	Autodesk Construction Cloud API 入門編	Manufacturing Data Model API V2 概要
15:00-15:10	休憩	
15:10-15:55	つながるデータ – AEC Data Model API イントロダクション	AI 対応 - 製品への組み込みとタイミング
15:55-16:05	休憩	
16:05-16:50	Autodesk Construction Cloud API 徹底研究編	Autodesk Platform Service とノーコード/ローコードによるアプリケーション開発
16:50-17:00	休憩	
17:00-17:45	つながるデータ - AEC Data Model API 実践	Data Exchange コネクターの作成

セッション詳細：

ジェネラル セッション

セッション名	セッション概要
ジェネラル セッション	ファイルをベースにしたデータからクラウドを活用した粒度の高いデータへ、データの在り方を新しく定義する「デザインと創造プラットフォーム」のコンセプトと、それを支える Autodesk Platform Services (APS) の役割、エコシステム、今後について包括的にご紹介します。

ブレイクアウト セッション

セッション名	セッション概要
Autodesk Construction Cloud API 入門編	Autodesk Construction Cloud API の基本について説明します。全体的なアーキテクチャ、BIM 360 との違い、各コンポーネントサービスが提供する機能等について、これから開発を始められる方、ACC API に関してリフレッシュが必要だと感じている方を対象に説明します。
つながるデータ – AEC Data Model API イントロダクション	建設プロジェクトにおいて、設計から施工、運用まで、全てのデータが繋がることが求められています。このセッションでは、GraphQL による新しいアプローチで「データ」にアクセスする方法について、そのコンセプトと活用方法を、既存の API と比較しながらご紹介いたします。
Autodesk Construction Cloud API 徹底研究編	Autodesk Construction Cloud API の中で、特にリレーションシップやモデル プロパティといった共有サービスの API 機能に焦点を当てて詳しく見ていきます。また、最近 BIM Collaborate Pro に追加された Tandem for AEC についても簡単に紹介します。
つながるデータ - AEC Data Model API 実践	AEC Data Model API について、実際の API の利用方法を解説し、サンプルコードをご紹介いたします。
Autodesk Platform Service とノーコード / ローコードによるアプリケーション開発	Autodesk Platform Service の API と Power Automate、Power BI などの Low-Code / No-Code ツールを用いたアプリケーションの開発についてご紹介いたします。
AI 対応 - 製品への組み込みとタイミング	すでに数多くのオートデスク製品に活用されている AI を使った機能に触れ、今後のデザイン領域への AI 応用を考察するビジネス セッションです。
Manufacturing Data Model API V2 概要	Manufacturing Data Model API V2 の概要および、API 利用時に使用する GraphQL について解説をいたします。また、GraphQL を用いて Manufacturing Data Model API V2 にアクセスする際に利用できる開発者向けのツールや、GraphQL を利用する際のベストプラクティス等も併せてご紹介いたします。
Data Exchange コネクターの作成	粒状データを使ったデータ交換の考え方と、Data Exchange SDK で Data Exchange コネクターを作成するコードをご紹介します。